＜幼稚園教育＞

意欲的に遊ぶ幼児を育てる環境構成と援助の工夫

－楽器遊びを通して－

糸満市立西崎幼稚園教諭　　比　嘉　由美子

内容要約

意欲的に遊ぶ幼児を育てるために，日々の保育記録の中から幼児理解に努め，幼児のイメージに合った場作りや素材，教材・教具を取り入れ，環境構成と援助の工夫を探り実践してきた。

実践では，楽器遊びを通して場作りをすることで遊びへの意欲を育てる環境構成，幼児のいろいろな表現を認め生かす援助の工夫を試みた。その結果，幼児に楽器への興味や関心を持たせることが出来，楽器作りや楽器遊びに意欲的にかかわる姿が見られた。さらに、日々の遊びや生活にも意欲が出てきた。

【キーワード】　幼児理解　意欲的に遊ぶ　意欲を育てる　楽器遊び　場作り

目　　次

Ⅰ　テーマ設定の理由……1

Ⅱ　研究の視点……1

Ⅲ　研究内容……2
1　意欲的に遊ぶ幼児……2
2　意欲を育てる環境……2
3　意欲を育てる援助……2
4　幼児理解……3
5　楽器遊びについて……3

Ⅳ　保育実践……4
1　活動名……4
2　設定の理由……4
3　保育目標……5
4　保育計画……5
5　本時の保育計画……6
6　保育の省察……8
7　幼児の変容……8

Ⅴ研究の成果と今後の課題……10
1　成果……10
2　今後の課題……10

＜幼稚園教育＞

意欲的に遊ぶ幼児を育てる環境構成と援助の工夫

－楽器遊びを通して－

糸満市立西崎幼稚園教諭　　比　嘉　由美子

Ⅰ　テーマ設定の理由

幼児期は，「人間形成の基礎となる豊かな心情，物事に自分からかかわろうとする意欲や健全な生活を営むために必要な態度が，培われる時期である。」と『幼稚園教育要領』に記されている。幼稚園においては，幼児期の特性を考慮して生きる力の基礎となる心情，意欲，態度がそれぞれの幼児の中に培われるようにすることを，具体的な目標としている。しかし，近年，地域とのかかわりの希薄化等から，豊かな心情，意欲，態度をはぐくむことが容易ではなくなってきた。そのため，幼稚園においては，これらの意欲や態度をはぐくむことが，強く求められている。特に意欲は，主体的に生きていく上で重要な要素であることから，意欲をはぐくむための環境構成が重要な課題となっている。意欲をはぐくむ環境とは，「楽しい」「やってみたい」と幼児が感じ，興味や関心を抱き，主体的にかかわれるような環境，行動を起こせば応えてくれるような応答性のある環境のことである。そのような，周囲の環境に一人一人の幼児がかかわり，十分に自己を発揮しながら意欲的に園生活を進めていくことは，充実した園生活を送ることにつながり，様々な発達を促すものである。幼児が意欲を持って遊びに取り組むためには，あるがままの姿を受け入れてくれる教師と仲間がいること，遊びのイメージにあった場作りができ，素材や教材・教具がそろっていること等が大切なこととなる。

これまでの保育を振り返ってみると，教師が幼児のあるがままの姿を受け入れることや，ほんの些細なことでも認め，誉めることを心がけてきた。そのことでほとんどの幼児に，幼稚園は楽しいと感じさせることができ，積極的に遊びに取り組ませることができた。しかし，意欲を持って主体的に遊びに取り組めない幼児も数人いて，幼稚園がただ単に楽しいだけでは意欲につながらないということに気付いた。原因として，教師が，幼児の内面を理解するための会話の不足，遊びのイメージを具体化できる素材や教材・教具の準備の不足，遊びのイメージにあった場作りの弱さなどがあげられる。

幼児の意欲的な遊びを促すものとして，楽器や音楽などがあげられる。日々の幼児の姿を観察していると，空き缶や空き箱を見つけ，手や棒で叩いたり，空き容器に砂や石を入れてマラカスを作って音を出したりして楽しんでいる姿や，パーランクーを床の上に並べてリズム打ちをしたり，音楽を聴きながら楽しそうに遊んだりしている姿が見られた。このように，楽器や音楽は，幼児にとって興味や関心をそそりやすく親しみやすいものである。しかし，そのような場面を「楽しそうだな」とそのまま見過ごし，通り過ぎていたことで遊びを停滞させたり，マンネリ化させる結果にあった。その解決の手だてとして，今この場面において何を楽しんでいるのか，何が必要なのかを読み取る。また，教師が幼児と楽器遊びを楽しんだり，楽器作りの材料を準備したりすることで，幼児が意欲的に遊びにかかわれるような環境構成と援助の工夫が必要だと感じた。

そこで，幼児が親しみやすく，取り組みやすい楽器遊びを通して，環境構成や教師の援助の工夫を探り，意欲的に遊ぶ幼児を育てたいと考え，本テーマを設定した。

Ⅱ　研究の視点

1　観察記録や幼児との会話を通して，内面理解に努め，意欲に結びつく興味・関心を把握する。

2　楽器遊びのイメージを豊かにするために場作り，素材，教材・教具を取り入れて意欲を育てる環境構成と援助の工夫を探る。

Ⅲ　研究内容

1　意欲的に遊ぶ幼児

近年の教育改革の目標は，主体的に生きる力の育成にあり、そのために幼児が身につける目標の一つが「意欲」である。意欲とは，ものごとに対して自ら積極的にかかわろうとする心，そうしたいと思う気持ちを意味する。

意欲的に遊ぶとは，自分から進んで活動に取り組み，それをやり遂げようとする姿である。幼児自身が「ああやってみたい」「こうやってみたい」という気持ちを自ら確かめ，試し，工夫し，模倣しながら，イメージを実現させていくことである。幼児が意欲を持って活動に取り組むには，幼児に興味や目的意識を持たせるようにする教師の援助の工夫が必要である。また，取り組んだ活動を進める過程では，多少つらくてもがんばり，それを成し遂げていく喜びを，味わわせるように適切な援助をすることも大切である。

2　意欲を育てる環境

(1)　教師の手だて

①　遊びのイメージにあった場作り

幼児の遊びのイメージにあった場や雰囲気作りを，幼児と一緒に作り出していくことが，環境作りとして求められる。

②　イメージを具体化できる素材や教材・教具の提示

幼児の遊びのイメージを具体化し実現するには，素材や教材・教具を幼児とともに，試行錯誤しながらより多く準備することである。

③　イメージを具体化するような会話。

幼児と活動を楽しみながら，幼児のイメージを具体化するような会話を通して，努力を認めたり，次への取り組みを促したりする。

(2)　幼児側から

①　受け入れてくれる教師と仲間がいること

幼児のあるがままの姿を受け入れ，幼児の心の安定のよりどころとなることを基盤として，幼児の遊びの充実にかかわる教師がいること。また，喜怒哀楽をともに感じることのできる仲間がいることは，集団の中で生活する上で心強く，その子を伸び伸びとさせてくれる

②　自分の思いや考えを言える雰囲気があること

教師と幼児、幼児と幼児の信頼関係が確立している中で，本気でぶつかり，喧嘩をしながらも互いの思いや考えを伝え合い，受け入れ合うことのできる仲間関係は，意欲的に遊ぶ幼児をはぐくむための一要素となる。

③　遊びのイメージにあった素材や教材・教具がそろっていること

イメージを具体化するには，作りたいものが作れる，展開したい方向に沿った多様な廃品素材を含めた教材・教具に出会えることが大切になってくる。また，多様なものがそろっていることは，幼児の生活の幅を広げ，幼児自身の未知の可能性を引き出し伸ばしてくれる。

3　意欲を育てる援助

(1)　幼児がやってみたい時を大切にする。

幼児が身近な環境に対して「おもしろそうだな」「やってみようかな」など，興味や関心，欲求を持ちかかわろうとする気持ちを大切にする。また，繰り返しを楽しむことを保証すること、繰り返しの中でもそれが深まり広がるように援助する。幼児が遊びを楽しめている時には，遊びが自然に継続していくことが分かる。

(2)　幼児の思いに添った援助をする。

幼児の思いの中で，活動に対して具体的なイメージがあっても，それを実現できるような環境がなけなければその活動はしぼんで半減していく。そこで，幼児の思いが実現できるようにじっくりと話し合い，幼児の思いに添った活動が，展開できるように援助すると活動も発展性を見せ持続するようになる。

(3)　その子なりの意欲を高めていく。

幼児一人一人の動きを観察したり，会話することから気持ちを組み取り，その子なりにがんばろう

とする姿を認め，時には賞賛しながら援助していく。がんばってやり遂げた時には，共に喜び，他の子に伝えることで励みとなるようにする。

(4) **教師がやってみせることを大切にする。**

幼児の活動に対して教師が，積極的に働きかけることも必要であり，幼児と生活を共にしながら，その子に応じた助言をしていくことを心掛ける事も大切である。メロディベルを思い思いに振って，音を出すことを楽しんでいるグループの中で，教師が「ドドソソララソ・・・」と簡単なメロディで歌を歌うと興味を示し，仲間同士「きらきらひかる・・・」と口ずさみながら，リズムと音を合わせようとする気持ちが出てくる。

4 幼児理解

幼児理解とは，幼児の行動を捉えるだけではなく，その行動のもとにあるものを捉えることである。幼児の行動のもとにあるものを捉えることができれば，なぜそのような行動をとるのかがわかり，また，それに対して教師としてどう対処すればよいのかの手がかりを得ることができるのである。つまり，教師は，指導につながる理解をしなければならないのである。

保育にとって重要なのは，幼児の行動の中に含まれている心の声に教師が真剣に耳を傾け，幼児の心の声を感じ取り，その感じ取ったものの中に課題を見いだすことである。そのためには，生活や活動を共にし，幼児と深くかかわり合うようにしていくことが必要である。

5 楽器遊びについて

(1) **幼児期における楽器遊びとは**

楽器遊びは，幼児の音に対する感覚を育て，幼児のイメージや考えたこと感じたことを，楽器を通して表現する喜びを味わわせるものである。この表現の喜びを感じさせることが次への表現意欲となり，幼児の様々な活動への興味や関心を助長し，幼児の豊かな成長・発達を促していくものである。

「幼児にとっての楽器は，既製のものだけではなく，広い意味で身のまわりにあるもの，音のするものすべてが楽器となりうる。幼児は自然界の音や生活の中で聞こえる音にも敏感である。」と『保育用語辞典』の中に記されている。幼児は，身のまわりにある様々なものに触れ，叩く，引っ張る，こする，吹く，はじく等して出る音をおもしろがり，音への興味を広げていく。やがて，手を叩いたり，指を鳴らしたり足を床にドンドン打ちつけたり，口笛を吹いたりして体の一部を使って音が出ることにも気付くようになる。５歳児になるとその興味はとどまることを知らず，身のまわりにある様々な廃品素材や教材を使って自分たちのイメージで楽器を作り始める。そして，友達と一緒に作った楽器で音を出すことを楽しんだり，既製の楽器も取り入れながら，なじみのある簡単な曲に合わせてリズム遊びを楽しむようになる。

(2) **楽器遊びで育つもの**

① 表現の楽しさを知り豊かな感情が育つ。
- 知っている歌や曲に合わせて楽器を打ったり，動いたりする楽しさを味わうことで，音楽に対する興味や関心を高め音に対する豊かな感覚が身につく。

② 友達関係が育つ。
- 友達と同じ楽器で，拍子やリズムを打ったりする楽しさや友達の演奏を見たり聴いたり，一緒に演奏する楽しさを知る。
- 友達と役割を分担したり交代したりして協力して音楽を作っていく楽しさを味わう。

③ 創造性への芽が育ち，遊びの幅が広がっていく。
- 楽器の特徴を知り，望ましい扱い方を身につけ，いろいろなリズム打ちやその変化の楽しさを知る。
- 曲の速度や強弱を感じながら打ったり，歌や曲の内容に合った楽器を選び，それを表現する。
- 楽器遊びから他の活動へ発展して遊んだり，遊びの中に楽器を取り入れて遊ぶ。
- 友達と一緒に感じたこと考えたことを，工夫して表現する。

Ⅳ　保育実践

1　活動名

いろいろな楽器を使って音遊びをする。

2　設定の理由

(1)　教材観

空き箱，空き缶，発砲スチロール，チラシなどの廃品は，幼児にとって宝の山である。そこにセロハンテープ，ホッチギス　マジック等の用具を置いておくといろいろなイメージで製作に取りかかる。大きな段ボール箱は格好の大太鼓，乳酸飲料の空き容器と小石を使ってのマラカスなど，幼児の発想はとどまるところを知らない。カスタネット，タンバリン，スズ，ハンドベル，太鼓等の楽器は，家庭ではあまり経験することがなく，幼稚園で初めて経験する幼児が多い。しかし，幼児は，音の出るものに強い興味を示すので楽器としてよりは 音のでる遊具として幼児の遊びの対象になると言える。身の回りにあるすべての物体は叩く，こする，振ることによって音を出すことができる。廃品利用の物においても，幼児の働きかけによって自由に音を出すことができる。この発想は，楽器をそろえなければ楽器遊びはできないと言う固定観念を破り，柔軟な思考と創造性の発達を促すものである。

このように，廃品を使って音の出る物を作って遊んだり　そこに既製の楽器を交えての表現遊びは，幼児の遊びへの意欲を高めるのに適した教材といえる。

(2)　幼児観

幼児は，周囲の環境からの刺激に敏感に反応する。７月に行われた小学生との「お兄さん，お姉さんとの音楽会」を終えた後，楽器への興味や関心が急激に高まった。学級の中で，自分がいかにもトランペットを吹いているというしぐさや，太鼓を叩いている姿をイメージしながら，太鼓を叩くパフォーマンスを繰り返している幼児の姿が見られた。また，スズや太鼓，カスタネットなどを室内に置いておくと自然に，触れたり音を出すことを楽しんだりする姿も見られた。

９月にパーランクーを目にした幼児は，競い合ってパーランクーでリズム打ちを楽しみはじめた。一人で，あるいは友達と一緒に，グループでとパーランクーの数を増やしながら，様々な打ち方でいろいろな音を楽しんでいる姿があり，毎年のように運動会が近づくと見られる光景である。

「楽器」に対するアンケートを取ってみると，幼児は知識としてシンバル，バイオリン，カスタネット，トライアングルなど身の回りにある楽器の名称を上げることが出来た。また，「楽器遊びをしたい」が88 %。「自分で楽器を作ってみたい」が 96 %と数値が高い。そのことから，大半の幼児が音の出る楽器に対して親しみを感じ，「自分で楽器を作りたい」「楽器で遊んでみたい」と興味や関心を示していることが分かる。

(3)　保育観

幼児は，音の出るものに対して強い興味を示し，空き缶や段ボール箱などをたたいて楽しんでいる姿をよく見かける。それは，自分の思いを表現する姿であり，音楽活動へとつながっていく大切な遊びでもある。楽器遊びは，音に対する感覚を育て，自分の思いを楽器を通して表現する喜びを味わわせるものである。そこで，幼児の実態から，意欲的に遊ぶ幼児を育てるために，興味や関心の高い「楽器」を自分で作ったり，「楽器」で遊んだりすることを通して，環境と援助の工夫を次のように考えて見ることにした。

環境の工夫として，身の回りの物を使って音探しを楽しんだり，自分のイメージで楽器作りを楽しんだりできるように，いろいろな廃品素材を揃えたコーナーの設置。好きな曲やカセットテープレコーダーを準備し，いろいろな楽器で表現することを楽しめるコーナーの設置。自分達の出した音を録音し聞いて試聴できるコーナーを作るなど，幼児が意欲的に活動できるように，意図した環境構成を試みる。

援助の工夫として，日常生活の中で聞こえてくる音，身の回りの物を使っての音探しから，みんなで気持ちをひとつにして，合奏遊びが出来るようになるまでの長期の指導計画を立てる。一人一人の幼児の気持ちを受け止めることで，自分の存在感を感じさせる。教師も幼児と一緒に「楽器」遊びを楽しむ。幼児が，楽器作りや楽器遊びの中で工夫したり，考えたりしたことを認める，誉める，他の子にも広める。

このように，細やかな援助を保育の中で展開させていきたい。

(4) 幼児の実態と教師の願い　1例

幼 児	記述の視点 ・心が安定しているか　・遊びに意欲があるか　・教師の願い　(9月までの記述)
Bさん	穏やかでこころのやさしい子である。好奇心旺盛でいろんな遊びに積極的に取り組む。7月の「お兄さんお姉さんとの音楽会」で一番感動を受けた子である。クラスの中で楽器の音を出すまねをして，それに共感した他の子数人を交えたパフォーマンスで盛り上がった。その後，廃品を利用したマラカス作や段ボール・空き箱を叩いて太鼓に見立てる遊びが始まった。9月になるとパーランクーでエイサーを踊る姿があった。 飽きやすいので，遊びが持続できるように援助したい。
Cさん	秘めている力は非常に大きいが，9月の中旬頃までは，自分の思いや考えを担任が求めても答えてくれない。他の子の遊びを漫然と見ているだけであった。9月中旬以降，一輪車や竹馬に挑戦したり，友達と一緒に，マラカスに入れる材料をいろいろ違えて音を楽しんだりして，本来持っている力を出す手応えを見せるようになる。遊びや生活する姿に張りが出て表情も明るくなってきた。他の子や教師に自分から話しかけたり，遊びの要求をするようになる。 必要な援助をしながら，自分で育とうとする気持ちを大事に見守っていきたい。

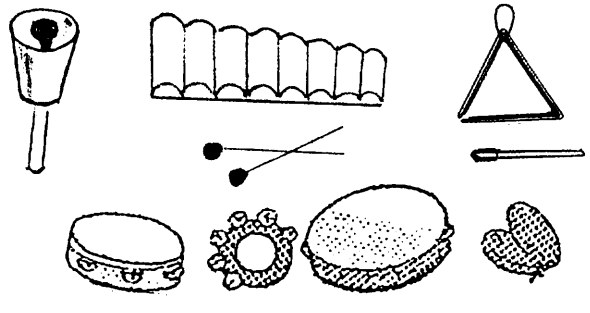
3　保育目標

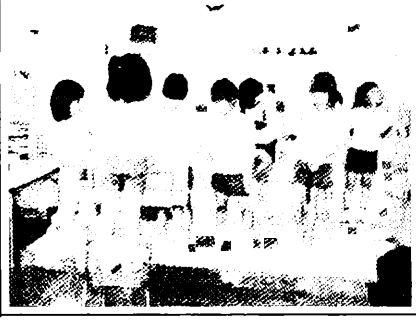
(1)　生活の中での体験の様子や心の動きを自分の声や体の動き，あるいは素材となるものなどを仲立ちにして表現する。

(2)　自分なりに工夫したり，考えたりしながら作る楽しさを味わう。

(3)　共通の目的に向かって，みんなで力を合わせて取り組む楽しさを味わう。

4　保育計画

月日	ねらい	幼児の活動	環境（★）と援助（☆）
11/21 (木)	○指遊びや歌を楽しむ。 ○身の回りにいろいろな音があることに気付く。	①指遊び・歌を歌う ②どんな音が聞こえてくるかな ③何の音かな ④似ている音を探そう ⑤身体や物を使っていろいろな音を出してみる	★歌を歌ったり，リズム遊びができるように，コーナーを作ったり，歌詞を掲示したりする。 ☆指遊び，歌，リズム遊びをすることで，わくわくするような気持ちを持たせる。 ☆ざわめきの中で聞こえてくる音静かなときに聞こえてくる音は何だろうと考えさせる。
	指遊び：ごんべさん　弁慶さん　どんぐりころころう　た：こおろぎ，まっかなあき		
11/26 (火)	○身の回りの環境から音の出る物を探すことを楽しむ。 ○既製の楽器で遊ぶことを楽しむ。	①指遊び・歌を歌う ②音の出る物を探す ③既製の楽器で遊ぶ ④絵を描く ＊歌のイメージに合う絵を描くことを楽しむ。	☆お家に，音の出る物があるかなと言葉をかけて，持ってきてもらう。 ★幼児の叩く，ねじる，こする，はじく，振る動きで音の出る廃品と既製の楽器を準備する。 ☆面白い音，きれいな音が出るのはどれかな，何の音に似てるかなと言葉をかけることで遊びに意欲を持たせる。 ★幼児の体験した音を幼児なりの言葉の表現で，黒板に書き留める。 ☆既製の楽器を使って自分なりのリズムを楽しめるように，教師も一緒に楽器遊びを楽しむ。 ★幼児の好きな曲やカセットテープレコーダーを準備する。 ☆カセットに幼児の出す音を入れみんなで聞いて，自分たちの出す音に，より興味を持たすようにする。
	指遊び：ごんべさん　弁慶さん　どんぐりころころう　た：こおろぎ　まっかなあき リズム：おもちゃのチャチャチャ 楽　器：カスタネット　スズ　トライアングル　メロディベル　もっきん 		

11/28 (木)	○自分なりに工夫したり，考えたりしながら作る楽しさを味わう。	①指遊び・歌，リズム遊び ②音の出る物を作る ③既製の楽器で遊ぶ ④絵を描く ＊歌のイメージに合う絵を描くことを楽しむ。	★楽器作りに必要な道具，廃品を準備する。 ★イメージできるように，教師の手作り楽器や今までに幼児が作った音の出る遊具を提示する。
	手作り楽器：ドラム　シンバル　スズ　太鼓 ギター　マラカス　等々		☆作りたいけどイメージの湧かない子には，イメージできるように話し合う。 ☆工夫したことを認めたり，誉めたりすることでうれしさ，楽しさを味わわせる。
12/3 (火) 本時	○自分なりに工夫したり，考えたりしながら作る楽しさを味わう。 ○友達と一緒にいろいろな楽器を使って簡単なリズム遊びを楽しむ。	①音の出る物を作る ②作った楽器で遊ぶ ③リズムに合わせて音を出して見る ④友達と一緒にリズム遊びをする。	★楽器作りに必要な道具，廃品を子どもと一緒に準備する。 ★完成した子が遊べるようなコーナーを作っておく。 ☆それぞれ仕上がった楽器を認めていきながら「どんな音が出るかな，楽しみね。」と言葉をかけ，自分の作った楽器に満足と期待感を持たす。 ☆一人で，又は友達と一緒にリズム遊びが楽しめるように必要に応じて言葉かけをする。 ☆学級全体でリズム遊びをするのではなく，「手作り楽器で遊ぼう」に付随した遊びであれば認め，援助していく。 ☆教師も一緒に作った楽器と既製の楽器を使って，曲にあわせてリズム遊びを楽しみながら遊びに参加しない子の気持ちを揺さぶっていく。
	＊作った楽器に色を塗ったり，模様や飾りを付けていくだろう。 ドラム		
12月 〜 2月	○友達と一緒にいろいろな楽器を使って簡単なリズム遊びを楽しむ。 ○学級全体で簡単な曲に合わせて分担奏を楽しむ。 ○学級全体で表現遊びを楽しむ。	①リズムに合わせて音を出してみよう。 ②みんなで簡単な曲に合わせて分担奏を楽しもう。 	☆一過性に終わらせることがないように，常にリズム遊びができるようなコーナーを作る。 ☆ お兄さん，お姉さんみたいに音楽会を開いてお父さんお母さんに聞いてもらったらうれしいね」と言葉をかけ，学級全体で合奏することに期待と意欲が持てるようにする。 （発表会につなげていく） ← きらきらぼしの演奏

5　本時の保育計画

(1)　活動名　　・楽器で遊ぼう

(2)　ねらい（省略）

(3)　内　容（省略）

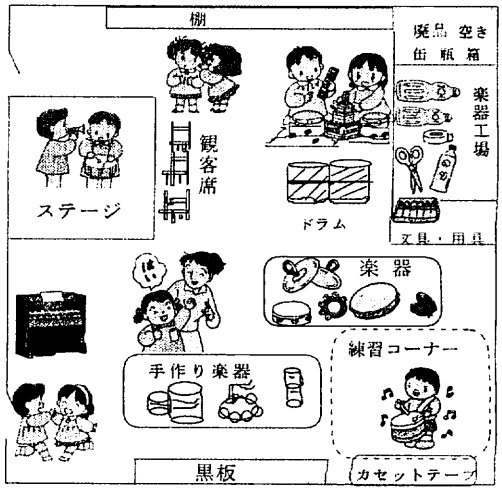
(4)　保育の視点

・場作りをすることで遊びへの意欲を引き出す環境構成の工夫。

・幼児がいろいろな楽器を作ったり遊んだりする場面の表現を認め，意欲を引き出す援助の工夫。

（5）保育の展 開　　指導案（平成14年12月３日　火曜日）　かじき組　　男児１６名　女児１６名　計３２名

幼児の姿	○いろいろな廃品を使って楽器作りを楽しんでいる子，楽器をどう作っていいかわからずとまどっている子，アニメの世界で制作を楽しんでいる子などの姿がある。 ○友達と一緒にメロディベル，スズ，カスタネット，自分で作った楽器などを使って，音遊びやリズム遊びを楽しんでいる姿がある。	ねらい	○自分なりに工夫したり，考えたりしながら音の出る楽器を作る楽しさを味わう。 ○友達と一緒にいろいろな楽器を使って表現遊びを楽しむ	内容	○廃品を利用し，工夫しなが自分の作りたい楽器を作る。 ○作った楽器の音を出して遊ぶ。 ○友達と一緒にいろいろな楽器を使って表現遊びをする。

生活の流れ	幼児の活動	環境構成（★）と教師の援助（☆）
○活動の準備をする	活動の準備をする	☆子どもと一緒に活動の準備をしながら遊びへの意欲を持たす。 ★遊びが始められるように廃品，先日作った手作り楽器，子どもの好きな曲などを準備する。
9:30 ●楽器で遊ぼう ○話し合う	話し合う 	☆前日の話をしたり，指遊びや歌を歌ったりして緊張をほぐす。 ☆先日作った楽器や音を紹介する。「おもしろい音だね。」「かっこよく作れたね。」「まだ途中だね。完成したら音をきかせてね。」など，認めたりして意欲を持たす。 ☆先日，楽器遊びを楽しんでいたグループを紹介し，他の子が楽器遊びに興味や関心が持てるようにする。
○楽器を作る ・廃品を利用して	楽器を作る 	★楽器を作るコーナーを設定し，いろいろな廃品素材や楽器を作るための文具や用具を準備する。 ☆「今日はどんな楽器を作るのかな。楽しみだね。」「作った楽器に模様を描いたり，色を塗ったりするとすてきになるね。」「どんな音が出るの。」等々，必要に応じて言葉を掛けたり手伝ったりする。 環境構成（コーナー配置図） 
○楽器遊びを楽しむ ・手作り楽器と既製の楽器を使って	楽器遊びを楽しむ 	★自分たちで遊びが進められるようにステージや練習コーナーにテープレコーダー，子どもの好きな曲や歌詞，いろいろな楽器，譜面台などを準備する。 ☆一人で，友達と一緒に，曲に合わせて歌を歌いながら遊びが楽しめるようにする。また，教師も一緒に遊ぶ中で必要に応じて言葉かけをしていく。
10:10 ○片づけをする 10:15 ○話し合う	片づける 話し合う 	☆「○○さんのところ大変そうだね。手伝ってあげよう。」「きれいになったね。」など声をかけ，みんなで協力して気持ちよく片づけができるようにする。 ☆明日の遊びへとつなげられるように，子どもと話し合いながら片づけを進めていく。 ★みんなの顔が見えるように，丸くなって座る。 ☆今日楽しかったこと，困ったことを話し合う。なぜ？と問いかけることで子ども自身の気持ちを，子どもなりに意識していけるようにする。 ☆教師の楽しかったことを伝える。次の遊びへ意欲がもてるように理由を具体的に話す。

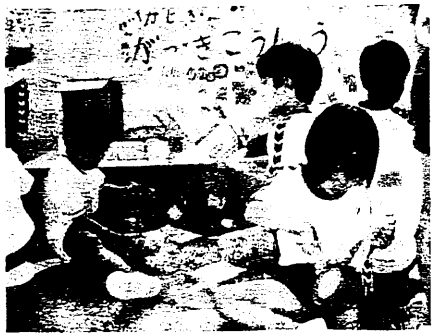
備考	★製作に使う準備物 セロハンテープ ビニールテープ マジック・クレパス等 ガムテープ ビニール紐	＊スズ 瓶のふた 金槌 針金 ＊マラカス 乳酸飲料の空き容器 石・砂 木の実 ＊ドラム 段ボール ペットボトル・空き缶 他の廃品	☆援助のあり方 ・受け止める ・認める ・褒める ・幼児と一緒に楽しむ ・他の子に広める ☆必要に応じてとは 幼児が ・イメージに詰まったとき ・作る技術に不足があるとき ・工夫している場面のとき ・友達と一緒に楽しんでいるとき

6　保育の省察

(1)　場作りをすることで遊びへの意欲を引きだす環境構成の工夫

① 「かじき　がっきこうじょう」の設置

乳酸飲料の容器や空き缶，紙コップなどを利用して4，5人の幼児が大小様々なマラカスを作って楽しんでいる。そこへ教師が，段ボールやペットボトル，空き箱，空き缶，卵ケースなどの廃品素材を持ってくると，それを利用した楽器作りが学級の中で広まった。S男の「楽器工場みたい」の発言でみんなで話し合い，学級の一角に「かじき　がっきこうじょう」を作った。その結果，各家庭から廃品を持ってきて，今まで以上に活動が盛り上がり，様々なドラム，太鼓，ギター，スズなどの楽器が出来上がった。



廃品を使って楽器を作る

② 「ステージ」「練習コーナー」の設置

作ったもので練習し，演奏する場所があれば楽器遊びにもっと意欲が出るだろうと，みんなで練習するコーナーとステージを作った。その後，作る，練習する，演奏する，お客さんになるなど継続性のある活動へと発展していった。そして，学級だけの活動にとどまらず他の学級に招待状やきっぷを出して「小さな演奏会」を開くまでになった。

ドラムを作り演奏を楽しむ

(2)　幼児のいろいろな表現を認め生かす援助の工夫

教師の援助活動は幼児と生活を共にし，幼児の活動の展開の中から幼児の興味や関心，その活動に教師が見いだした課題に対して，発達に応じた経験を積み上げていけるような援助活動でなければならない。

① 幼児の興味や関心に添った援助

幼児が，楽器を持っているような身体表現をしながら，体でリズムを取り，音を出すことを楽しんでいる。それは，幼児が「お兄さんお姉さんとの音楽会」に刺激されたものである。そのような幼児の興味や関心に添い，保育環境の中にカスタネットやスズ，タンバリンなどの楽器を出してみると様々な打ち方で遊び始めた。音の違いを楽しんでいるようである。「Mさんのタンバリンの音，いい音だね。」「そういうふうに打つと，いい音が出るんだね。」と打ち方を認めたり，「A君のスズの音といいコンビだね。」と友達と一緒の楽しさを受け入れたりする。側で聞いていたJ男も，自分もいい音を出そうという気持ちになり，乱暴な打ち方から適度な力加減で，タンバリンを叩くようになり，リズム打ちを楽しむようになった。

② 教師も一緒に遊ぶことを楽しむ

おやつの時に飲んだ乳酸飲料の空き容器を使って，マラカス作りが始まった。容器の中に入れる物は砂，石，木の実，枯れ葉や紙を小さく切った物など様々であるが，一様に小さく，マジックで模様をつけステキにできあがっている。「Aくんの強そうな音がするね。」「ぼくの石が入ってるんだよ。」「Nさんのやさしい音。」「小さく切った葉っぱが入っているんだよ。」など会話を楽しむ。「おもしろそう，先生も作ってみようかな。」と乳酸飲料の空き容器を，いくつも重ねて30 センチの長さの物や直径20 センチほどの空き缶のマラカスを作り　簡単な曲に合わせてリズム打ちを楽しむ。それに刺激された幼児は，段ボール，空き箱，卵の容器，ペットボトルなどの廃品素材を使って太鼓やドラム，ギター，様々なマラカスを作り始めた。ドラムは，大きな段ボールに大小様々な空き缶やペットボトル，瓶のふた，お菓子の容器などが使われ何ともダイナミックなドラムになっている。「すごい！これで“ありがとう”の歌に合わせて叩くときっとかっこいいよね」と期待を持たすと，2～3人のグループで4つのドラムを作り数人で交代しながらドラム打ちが始まった。その後，幼児は意欲を持って楽しく楽器遊びをするようになった。

③ 幼児の思いに添った援助

一人で，メロディベルを鳴らしながら音階を楽しんでいたK子。“きらきらぼし”の譜面を提示するとメロディベルに夢中になる。「上手に音が出せるようになったね。」「Nさんもやりたたそうに見ているよ。」と言葉をかけると，一人で忙しくベルを取り替えていたK子は，N子，R子，S子を仲間に入れて“きらきらぼし”の音階さがしを楽しむうちに，上手に演奏できるようになった。その経験が，仲間としての一体感を味うことにもなったようである。

仲間とメロディベルを楽しむ

7　幼児の変容

(1)　学級全体

9月頃までの学級の雰囲気として仲間関係もでき，積極的に遊びに取り組む幼児がいる中で意欲を持って主体的に遊びに取り組めない幼児も数人いた。そこで，積極的に遊びに取り組める幼児には，互いの思いや考えを活動の中に反映させ，見通しを持った活動ができるように援助してきた。また，積極的に遊びに取り組めない数人の子には，遊びへの意欲をはぐくむために，楽器を取り入れた環境構成や援助の工夫に力を入れ検証保育に臨んだ。

その結果，日々の保育の記録や幼児と活動を共にし会話をすることで，さらに信頼関係を深め，内面を理解することができ，幼児の興味や関心に添った保育活動を展開することができた。さらに，幼児に充足感を与え，教師に受け入れられているという心地よさから伸び伸びと表現することができ，活動意欲を喚起させた。

その後の変容として，学級の中で「ミニ音楽会」を開くようになり，さらに，楽器遊びが発展し持続していく中で，学級だけでは足りず他の学級に招待状やきっぷを配るまでに至った。このように，互いの思いや考えを活動の中に反映させ，見通しを持った活動ができるようになった。

遊びに取り組めなかった幼児に至っては，以前，登園時の行動に生き生きとした表情が見られなかったが，今では，遊びに目的を見いだしたのか登園後すぐに体育着に着替え，曲に合わせてドラム打ちやメロディベルの練習を，友達と一緒に楽しむ姿が見られるようになった。

12 月4日（水）の記録から

・D男，T男2人で段ボールを使い大きな太鼓を作る。他の子も昨日に引き続き楽器つくりを楽しんでいる。お話し会と一緒に楽器遊びをすることを知らせると，他の学級に招待状を出したいということになった。ウォークラリーで拾った落ち葉を招待状につけたいと提案する子も出る。

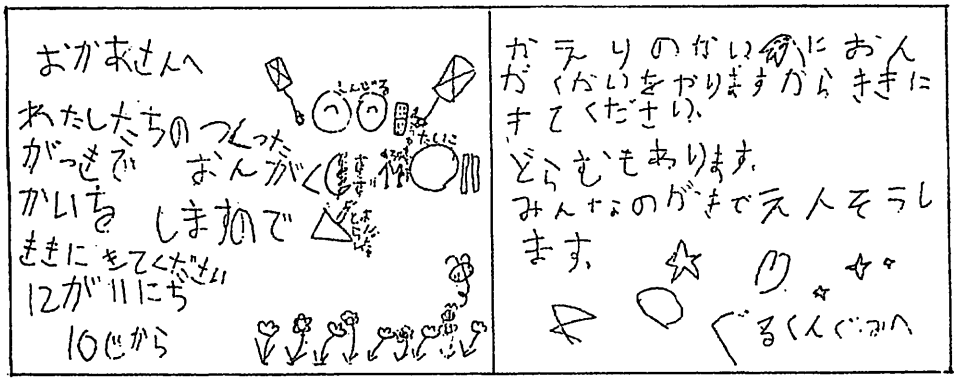
12 月5日（木）の記録から

・帰りの会の時，それぞれ自分たちで作った楽器で演奏を楽しむ。全員参加の演奏となるが，曲に合わせて叩こうとする気持ちが伝わってきた。子ども達の気持ちが一つになったような気がした。自分の気持ちを伝えることが苦手で遊びの中にうまく入りきれなかったN男も一緒にハンドベルを手に演奏を楽しむ姿が見られうれしかった。

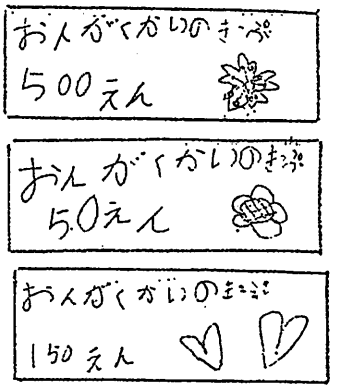
12 月6日（金）の記録から

・AM8：50　S男，D男，R男，A男は着替えを早く済ませ，ドラム打ちに熱中する。

・Ｚ男，Ｔ男，Ｓ男３人が先日作った太鼓を車（廃品で作った車）に乗せ，動く楽器と言いその車に乗せ移動しながら太鼓を叩いている。
・Ｒ男，Ｎ男，Ｋ男，Ｍ男，Ｄ男５人，ぐるくん組の学級の前で楽しそうに楽器演奏をしている。
・招待状やきっぷを作ることを楽しみにしていた女の子達が，お母さんへ招待状を作り始める。それに刺激された男の子達も書く用紙を請求してきた。11 日（水）の保育参加に「ミニ音楽会」を開くことに意気込んでいるようである。



資料１　幼児が作った招待状



資料２　幼児が作ったきっぷ

(2)　Ａさんの変容

遊ぶことに意欲があり一輪車，木登り，自転車，竹馬乗りに友達と一緒に積極的に楽しむ子であるが，自分の思いや考えを伝えきれずにいる。しっかりした考えを持っているが強い子には，押し切られるところがある。そこで，自分の思いや考えを積極的に他の幼児に伝えることでリーダー性を発揮し，見通しを持った園生活を過ごせる子になってほしいことを教師の願いにした。

日々の保育の中で，Ａさんの自分の考えで遊びを楽しむ姿が見られるが，自分の遊びを他の子に広めたりすることはなかった。しかし，検証保育後のＡさんの変容はめざましいものがあった。教師の言葉から次への行動を見通し，それを他の子に伝えて行動できるようになったのである。

日々の記録から

・12月５日（木）：帰りの会の時，ドラムのメンバー（Ｓ男，Ｊ男，Ｋ男）を率いて体でリズムをとりながら演奏を楽しんでいる。
・12月６日（金）：11日（水）の保育参加のとき，お母さんにドラムの演奏を聞いてもらいたい気持ちから、音楽会への招待状ときっぷを友達と一緒に作っている。
・１月７日（火）：教師が，学級の子に絵本会があることを知らせると，Ａさんが勢いよく廊下に出る。その後，Ａさん「絵本会に行きたい人，ぼくの後ろに並んで」というと続いて 20 人ほどの幼児が並ぶ。その日，Ａさんが引き連れるように絵本会に向かうかじきぐみの姿があった。
（Ａさんに指示した訳ではないが、自分で考えて行動できるようになった。）

(3)　Ｂさんの変容

入園当初から教師や友達に話しかけることがなく，教師や友達の動きを見て自分が必要と感じたときには，活動に参加する子である。そこで教師の願いをＢさんのありのままの姿を受けいれ，教師が積極的に話しかけたり，手伝いを頼んだりすることで安心感，存在感，充足感を味わいながら園生活を過ごして欲しいとした。やはりＢさんも遊びを進める中では，あまり変容を見せなかったが，検証保育後変容が見られるようになった。

日々の記録から

・12月６日（金）：Ｈ子Ｍ子Ｎ男と一緒にハンドベルできらきらぼしの演奏を楽しんでいる。
その後，お母さん宛てに音楽会の招待状を書いている。
・１月６日（始業式）：Ｂさんが門の所からにこにこと近づいてく「おはよう」と言葉かけをすると「おはよう」と元気なあいさつが返ってくる。お年玉のことを聞くと，今までになく多くを

語ってくれた。長縄遊びにも自分から加わり大波小波を楽しんでいる。

・1月7日：「先生，はがきありがとう」と自分から話しかけてくれ，ハムスターの世話を始める。一日にこにこしている。表情が非常に明るくなってきた。

(4) 家庭での様子

・ピアノを習ったことがないのに、お兄ちゃんの鍵盤ハーモニカで「きらきらぼし」「チューリップ」がひけるようになりました。
・ピアノを習っているのですが、家での練習が多くなり、ピアノの先生からもほめられ、楽しくピアノを弾くようになりました。しばらくさわってなかった木琴を出して遊ぶようになりました。
・ピアノで何曲か弾けるようになり、今は口笛の練習をしています。手をパチパチたたいて「お母さん手も楽器だよ」と言います。
・ピアノを習って弾くようになりました。大きくなったら歌手になりたいそうです。
・パーランクーのように空き缶の底をたたいたり、大太鼓のようにおもちゃ箱の底をたたいたりしています。お姉ちゃん達と「かえるの歌」の輪唱をしたり自分で作った歌を歌ったりしています。
・台所から箸を持ってきて姉弟 4 人歌を歌いながら壁やイス、空き箱などを並べリズム打ちを楽しんでいます。
・ピアノを弾くようになり、お風呂で毎日歌いながらシャンプーをするようになりました。
・ピアノを習っていた時の本を出して、音符を見たり、「この記号は何」と聞くようになりました。
・数個のコップを用意して、水の量を違えて入れ、箸でたたいて出る音の違いを楽しんでいます。

資料3　保護者の声

① 保護者からの声で，園での遊びを家でも継続していることが分かり，その背景に，保護者の幼児の遊びに対する理解を感じることができた。

② 幼児の興味や関心に添って，楽器遊びを計画的に展開したことが，意欲につながり家庭での継続がみられた。

V　研究の成果と今後の課題

1　成果

(1) 日々の観察記録をとることや幼児との会話を通して内面理解に努めたことで，遊びへの興味や関心を把握することができ，それを保育活動の中で生かすことができた。

(2) 幼児一人一人に応じた援助をすることで，幼児は，活動に自分たちの思いや考えを反映させることが出来，日々の遊びや生活に意欲が出てきた。

(3) 活動に添った場作り，素材，教材・教具を取り入れて意欲を引き出す環境構成と援助の工夫を図ったことで，幼児の意欲が育ち活動に発展と持続性を持たすことができた。

2　今後の課題

(1) 日々の観察記録の工夫と幼児理解の方法，保育への生かし方を深めていく援助の工夫をする。

(2) 幼児の知的好奇心を刺激することでさらに意欲を引き出し，探求心を持って園生活を進めていけるようにする。

(3) 幼児の感動体験を豊かにするため，家庭との連携のあり方を工夫する。

(4) 幼児の意欲を引き出すためには，教師自身，物事に対して興味・関心を持ち積極的にかかわることが大切である。そのことを踏まえ，研鑽を深めていきたい。

＜主な参考文献＞

岸井勇雄	小林龍雄　他編	『表現Ⅱ　音楽的表現』	チャイルド本社	1990 年
文部省		『幼稚園教育要領解説』	フレーベル館	1999 年
森上史朗	高杉自子　柴崎正行：編	『幼稚園教育要領解説』	フレーベル館	1999 年
西村拓生	竹井　史：著	『子どもの表現活動と保育者の役割』	明治図書	2000 年